

日本YMCA同盟

THE  
YMCA

The Young Men's Christian Association News



No.772 2017

2017年12月1日発行（毎月1日発行）  
1947年10月27日 第三種郵便物認可  
本体価格45円（外税）（送料62円）  
発行／公益財団法人 日本YMCA同盟  
〒160-0003 東京都新宿区四谷本塩町2番11号  
TEL：03-5367-6640 FAX：03-5367-6641  
URL：http://www.ymcajapan.org/  
発行人／神崎 清一 編集人／山根 一毅  
印刷／あかつき印刷株式会社



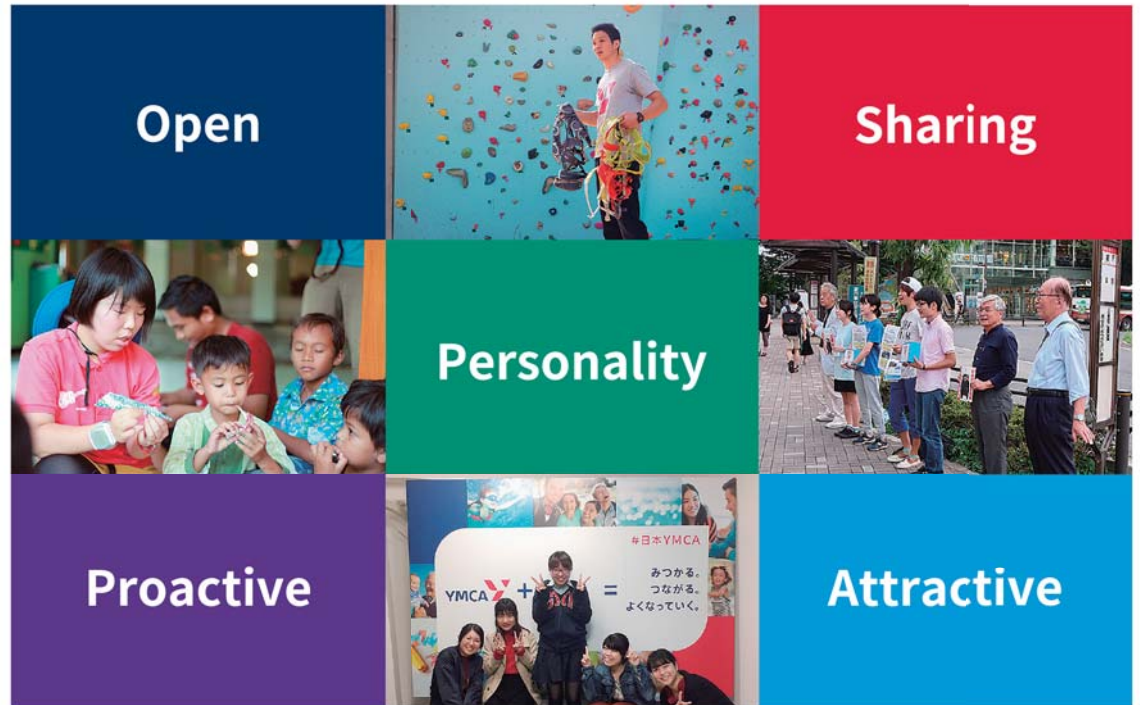
# YMCAブランドのPersonality 惹きつける魅力を持つ

幅広い活動領域の中、さまざまなプログラムが行われているYMCA。その一つひとつを作っているのは「人」です。

スタッフ、それを支えるボランティア、そして参加するメンバーやその保護者の皆さん。その一人ひとりが、YMCAで活動することにより多くの経験、体験をし、魅力的な人になっていけば、さらにその周りにいる人たちを惹きつけ、どんどんその輪が広がり、YMCAそのものが社会で特別な存在になっていくことでしょう。

周りを惹きつける魅力的な人、とはどんな人でしょう。多種多様な個を受け止める寛容な人。オープンマインドを持っている人。誰にとっても開かれた存在である人……。お互いの喜びや痛みはもちろん、未来への前向きな意思や挑戦を分かち合うことができる、そんな人。

今号ではYMCAスタッフが「私のYMCAに連なる魅力的な人」を紹介します。全国のYMCAでは魅力的な人たちが、ポジティブネットの一員として活躍しています。



## 人生を良くする場をつくる

—大越 創さん(北海道YMCAスタッフ)



大越創さんは、札幌ブランドに完成した「クライミングウォール」新設の立役者です。大学在学中にクライミングの醍醐味に触れ、その大なる可能性を見いだしたそうです。クライミングを、「ただ単に登る」というスポーツにとどめず、障がいなどさまざまな困難をかかえる人たちが希望を見出す場となったり、人びとや地域のつながりを拡大する架け橋として、関わるすべての人の人生を良くする場となるようなプログラムにしたいと考えています。

現在、教育的クライミングプログラムを企画していますが、大越さんの熱意は、地域の学校を動かし、さらには北海道内にこだわらず、他団体の協力を得るまでの規模になっています。このエネルギーが今後、ポジティブネット実現の推進力になると感じています。大越さんのパワーを筆頭に最北の地から日本のYMCAを元気づけていきます。

(北海道YMCA 北川 佳治)

## ポジティブ思考と朗らかさを備えた人

—高村亜也子さん(YMCAせとうちユースリーダー)

まるまるリーダーこと高村亜也子さん。大学に入学し、たまたま渡されたリーダー募集のチラシを見て、それまでまったく知らなかったというYMCAにやってきました。今では持ち前のポジティブ思考と朗らかな性格で周りを惹きつけ、リーダー会を中心から担う一人になりました。

今年9月、インドネシアのジョグジャカルタで

行われたピースキャンプに参加しました。最初は「英語が苦手なんです」と話していましたが、言葉を超えたコミュニケーションで次々に友達を増やしていきました。現地のユースやホストファミリーからは親しみを込めて「maru



左側が高村さん

(まる!)と呼ばれ、近隣の人びとからも、会えない日は寂しがられるほどの人気者に。帰国後、YMCAのことがますます好きになったと話していました。

(YMCAせとうち 白鳥 雅人)

## YMCAを力強く、笑顔で支える

—小原武夫さん(東京YMCA評議員・東京世田谷ワイズメンズクラブ)



前列中央が小原さん

いつも笑顔を決やさず、そしてとてもアクティブ。小原さんは南コミュニティーセンターを中心にさまざまな活動の大切な担い手として活躍されています。バザー、チャリティーラン、地域の方々の歌の会、ユースとの交わり、キャンプ場でのワーク……関わる活動の幅広さもさることながら、どれも心から楽しそうに、そしてうれしそうに奉仕してくださいます。一緒に活動する私たちも自然と心豊かにされる、そんなパーソナリティーをお持ちの方です。

会うと必ず声を掛けてくださること、時に鋭い貴重なアドバイスをくださること、いつもYMCAやスタッフ、リーダーに「関心」を寄せ「一緒に」活動してくださること、どれも心地よい大きな力になっています。

(東京YMCA 星野 太郎)

## 小さくされている人の痛みを分かち合いたい

—栗原梨紗さん(立教大学YMCA)

大学2年生の栗原梨紗さん。立教大Yでは地域の子どもの学習支援ボランティア活動を行っています。学習支援には、家庭的・経済的理由や障がいなどの困難をかかえる子どもや、海外にルーツを持つ子どももやってきますが、栗原さんは「らんらん」と呼ばれ、周りにはいつも笑顔があふれています。

一番大切にしているのは一人ひとりの子どもたちにちゃんと「向き合う」こと。多様な個性とその背景にあるものを、まずは自分がしっかり受け止めて、その子の居場所になれるような関わりを心掛けているそうです。

この夏は、全国学生YMCA夏期セミナーの運営委員長を務め「今の社会、私たちには、自分と思想や背景が異なる他者を無視したり排除してしまう動きがある。だからこそ私は、小さくされている人の視点に立って、痛みを分かち合うことができるようになりたい。そんな仲間が増えれば、それは平和な世界につながると思う」と全国の大学生に話してくれました。

(日本YMCA同盟 伊藤 剛士)



中央が栗原さん

## Positive Net NEWS

### 第48回全国YMCAリーダー研修会

【広島YMCA】

10月7日から9日、「第48回全国YMCAリーダー研修会」が開催されました。

テーマはYMCAのブランドスローガン「みつかる。つながる。よくなっていく。」で、ユースボランティアリーダー、YMCAのスタッフなど128人が参加しました。

毎日の礼拝やセッションを通して、YMCAとキリスト教の精神、ブランドコンセプトについて理解を得ることができました。また一人ひとりが、これまで行ってきた活動や経験をさらに深め、これから何ができるか、何をすべきかを考えました。

YMCAキャンプは2020年に100周年を迎えますが、その歴史と変遷についても学び、キャンプファイヤーや交流会も大いに盛り上がり、全国の仲間と楽しみながら、YMCAが「したい何かが見つかり、誰かとつながる。私がよくなる、かけがえのない場所。」であることを実感する機会となりました。



参加者の声をいくつかアンケートから紹介します。

- 人とのつながりや、命の大切さに気付くことができ、あらためて感謝することのできる内容でした
- いつも感覚や経験に頼っていた活動でしたが、理論を学ぶことで今までのことに根拠ができ、今後を見直すきっかけとなりました
- YMCAの諸活動の中で、自分の課題にしていることを振り返りながら、一つひとつの理解を深めることができました。理論に基づいて事例に触れることで、自分の活動を客観的に振り返ることができ、今後の活動の指針になりました
- ただ学ぶだけでなく、自分自身で考える時間、そしてグループの仲間と考える時間があったことでより深い学びとなり、さまざまな角度から考えることができました。学ぶたびに子どもたちの顔が思い浮かび、自分自身の活動を見つめ直しました。これからも子どもたち一人ひとりを思い、共に楽しみ、共に一歩踏み出していけるリーダーでいられるように頑張ります

今回の経験を生かして、参加者がそれぞれのYMCAで一層活躍し、YMCAの新しいブランドコンセプトの実践につなげていくことを願います。

広島YMCA 林 健太郎



「日本YMCA中期計画2020(2017-2020年)」の基本方針に「リーダーシップ研修の充実」と「ポジティブネット」実現の姿を示し、ユースエンパワーメントを推進する」とあります。今回の研修では、全国から集まったユースリーダー自ら

が社会の課題を見つめ、自己と社会の変革のためのアクションを起こすきっかけ作りができました。

